

2024 年度（上半期）町田市民病院事業計画の取組結果について

安定した病院経営を維持しつつ、質の高い医療サービスを提供していくために、「2024 年度町田市民病院事業計画」に基づき、経営改善を進めてまいりました。

このたび、「2024 年度町田市民病院事業計画」（以下、「事業計画」）の上半期における取組結果を報告します。

各年度の事業計画は、「町田市民病院第 4 次中期経営計画（2022 年度～2026 年度）」（以下、「中期経営計画」）を推進するために策定したもので、その取組結果は中期経営計画の進捗状況を示すものです。

1 取組結果の概況

2024 年度は、町田市民病院は地域医療の中核としての役割をさらに強化し、患者満足度の向上と急性期医療の質を高めつつ、患者数の増加を目指すなどの経営改善に取り組んでまいりました。

取組みの概要は以下の通りです。

- (1) 2023 年度に開設した HCU の運用については、6 月の診療報酬改定において看護必要度の評価項目が見直されたことに伴い、より患者を受け入れやすい仕組みに変更しました。また、地域連携の更なる強化を目的として 2024 年 4 月に発足した地域連携部を中心に地域医療機関との連携強化を図ることによって紹介患者の増加に努めました。加えて、診療報酬改定により一層の適正化を求められことになり院内一丸となって取り組んだ身体的拘束最小化やベースアップ評価料を活用した医療従事者の賃金増による人材確保策など、医療の質向上につながる取組みを行いました。
- (2) 入院患者数については、2023 年度上半期を上回っているものの、中期経営計画の目標値設定の基準とした新型コロナウイルス感染症拡大前の 2019 年度の水準に回復することができない状況です。医療技術の進歩、健康寿命の更なる延伸など、変化する医療環境の影響を受けたことなどが一因であると考えております。

以上の上半期の取組結果を踏まえて、10 月以降、より一層の救急患者の受け入れ数の増加や地域医療機関からの紹介患者数の増加を図り、これと同時に手術件数を増加することによって経営基盤を強化できるよう取り組んでまいります。

2 2024 年度上半期の延患者数

延患者数 17 万 768 人（前年度比△820 人）	【2019 年度：19 万 8856 人 △28088 人】
入院 5 万 6658 人（前年度比+957 人）	【2019 年度：6 万 4814 人 △8156 人】
外来 11 万 4110 人（前年度比△1777 人）	【2019 年度：13 万 4042 人 △19932 人】

2024年度（上半期）町田市民病院事業計画の取組結果について

2024年12月12日
行政報告資料
市民病院事務部経営企画室

1. 良質な医療の提供 ～持続可能な医療提供体制を提供していきます～

中期経営計画の取組項目及び目標値	2024年度事業計画目標	2024年度(上半期)実績値	2024年度(上半期)の主な取組内容	取組内容の説明
(1) 患者満足度の向上 【2023年度】 ・入院総合評価率 90.0% ・外来総合評価率 75.0%	・入院総合評価率 90.0% ・外来総合評価率 85.0%	・入院総合評価率 (実施中) ・外来総合評価率 (実施中)	・入院患者満足度の向上 ・外来患者満足度の向上	・患者満足度調査を2024年9月から11月にかけて実施しています。2023年度に引き続き患者満足度調査を、他医療機関とのサービス比較ができるベンチマーク形式にて実施しております。また、今年度からアンケートの回答方法を紙からWEBに変更したことにより、自宅等どこでも回答ができるようになり、患者の利便性が向上しました。 ・調査結果を受け、2024年度下半期に院内研修を実施予定です。 ・「患者中心の医療」という院内の基本方針のもと、2024年度診療報酬改定により一層の適正化が求められる身体的拘束最小化の取組みについて、委員会及びチームを発足し、患者の安全と尊厳を守りながら、より良いケアを提供することを目指して開始しました。
(2) 情報提供の充実 【2026年度】 ・病院ホームページへのクリニカルパス掲載数 70件 【2023年度】 ・動画コンテンツ平均再生回数	・クリニカルパスHP掲載数 61件 ・動画コンテンツ平均再生回数 300回 (2024年度アップロード)	・クリニカルパスHP掲載数 50件 ・動画コンテンツ平均再生回数 (2024年度下半期に実施予定)	・ホームページへのクリニカルパス掲載 ・動画コンテンツの企画・検討	・クリニカルパスについては、2024年度の病院ホームページ更改に向けて準備しており、年度末には目標件数に到達することを目指しております。クリニカルパス専用ページの開設を計画しており、より見やすいページの作成を検討しております。 ・2024年度上半期は、講座を担当する診療科と市民公開講座の内容について、検討を行いました。下半期は動画作成、ホームページへの動画公開を行うとともに、チラシの配布や広報まちだへの掲載等、コンテンツの周知に努めることで、平均再生回数の増加を目指します。 ・2024年度から、市民病院に市民を招いた公開講座の実施に向け、準備を進めています。2024年11月に子ども病院見学会、2025年1月に市民公開講座の実施を予定しており、市民病院が持つ医療情報を発信し、市民の健康増進に寄与してまいります。
(3) 医療連携の推進 【2023年度】 ・紹介率 77.0% ・逆紹介率 65.0% ・地域医療従事者向け研修回数 21回/年 ・医師による連携医療機関の訪問 30件/年 【2026年度】 ・紹介件数 18,000件/年	・紹介率 77.0% ・逆紹介率 65.0% ・地域医療従事者向け研修 21回/年 ・医師による連携医療機関の訪問 30件/年 ・紹介件数 16,800件/年	・紹介率 83.7% ・逆紹介率 68.9% ・地域医療従事者向け研修回数 7回/半年 ・医師による連携医療機関の訪問 4件/半年 ・紹介件数 8,330件/半年	・地域医療支援病院としての機能強化 ・地域医療従事者向け研修の実施 ・連携医療機関との連携強化	・紹介率は83.7%となり、2023年度上半期実績(80.2%)と比べ3.5ポイント増加しました。紹介件数は8,330件/半年となり、2023年度上半期実績(8,039件/半年)と比べ291件(3.6%)増加しました。 定期的に医療機関や患者へ紹介状を持参して受診するよう依頼することで、紹介受診が推進できました。 ・地域医療従事者を対象とした※研修会を7回実施しました。 ※①能登半島地震派遣、②まちやくネット(1)、③スキンケア、④看護師ができるエンゼルケア、⑤正しいPPE着脱方法、⑥まちやくネット(2)、⑦持続血糖測定器の使い方 ・地域医療機関と医師も含めたオンライン交流会、地域医療交流会に向けた準備を行いました。 ・医師による医療機関訪問を4件行い、情報交換をしました。また、看護師や社会福祉士など専門職による医療機関訪問を27件行い、近隣医療機関との連携強化に努めました。
(4) 入退院支援の充実 【2026年度】 ・入退院支援件数 2,500件/年	・入退院支援件数 2,440件/年	・入退院支援件数 1,190件/半年	・入退院支援の実施	・入退院支援件数は1,190件/半年となり、2023年度上半期実績(1,141件/半年)と比べ49件(4.3%)増加しました。組織改正に伴い多職種での連携をより強化し、入退院支援が必要な患者に対して、退院後の療養環境や介護サービスなど、個々の状況に応じて患者に寄り添った支援を行っています。
(5) 医療安全・感染防止対策の推進 【2023年度】 ・医療安全・感染対策講習会受講率 100% ・医療安全管理者研修の受講医師数 1人/年	・医療安全講習会受講率 100% ・感染対策講習会受講率 100% ・医療安全管理者研修の受講医師数 1人/年	・医療安全講習会受講率 (前期100%) ・感染対策講習会受講率 (前期100%) ・医療安全管理者研修の受講医師数 1人/年	・医療安全・感染対策などの研修の必修化 ・更なる医療安全文化の醸成	・医療安全講習会では、安全な医療行為に関する知識向上・普及を目的として、医薬用外劇物の取り扱いなどについて講義室での講義と動画研修を組み合わせて実施し受講率は前期100%(2023年度前期100%、後期100%)となりました。 ・感染対策講習会では、感染症に対する知識向上・普及を目的として、感染症対策や抗菌薬の適正使用などについての動画視聴を中心に実施し、受講率は前期100%(2023年度前期100%、後期100%)となりました。 ・医療安全管理者研修は下半期に医師1名受講予定です。
(6) 病院職員の安定確保 【2026年度】 ・(常勤職員数) 医師 93人 看護師等 410人 医療技術 115人 事務 41人 計 659人 ※育休及び休職者は含まず	・常勤職員数 658人 ・全診療科の指導医資格取得 1科/2科※ (※未取得診療科)	・常勤職員数 644人 ・指導医資格取得 1科	・常勤職員の安定確保 ・研修医師の指導体制の充実	・2024年度診療報酬改定において、医療従事者の人材確保に向けた取り組みとしてベースアップ評価料が創設されたことに伴い、医療従事者の賃上げをしました。 現在、常勤職員については、施設基準を満たす人員を確保しています。引き続き、医師・看護師を中心とした人員の確保に努めます。 ・臨床研修指導医は25名が在籍しており、2024年度は1名が指導医講習を受講し、26名となりました。 ＜2024年9月1日時点＞ ・常勤職員数 医師 82人 看護師等 410人 医療技術 111人 事務 41人 (うち病院専任 15人) 計 644人 ※育休及び休職者は含まず

2. 5疾病6事業の医療提供体制確保と充実 ～地域の医療提供体制を支えます～

中期経営計画の取組項目及び目標値	2024年度事業計画目標	2024年度(上半期)実績値	2024年度(上半期)の主な取組内容	取組内容の説明
(1) がん 【2025年度】 ・悪性腫瘍手術件数 860件/年 (内視鏡的切除術を含む) 【2023年度】 ・外来化学療法件数 190件/月 (抗悪性腫瘍剤のみ)	・悪性腫瘍手術件数 840件/年 (内視鏡的切除術を含む) ・外来化学療法件数 190件/月 (抗悪性腫瘍剤のみ) ・内視鏡手術支援ロボットによる手術件数 80件/年	・悪性腫瘍手術件数 375件/半年 (内視鏡的切除術を含む) ・外来化学療法件数 175件/月 (抗悪性腫瘍剤のみ) ・内視鏡手術支援ロボットによる手術件数 46件/半年	・手術療法の充実 ・ベッドの効率的な運用 ・低侵襲手術の推進	・悪性腫瘍手術件数については、375件/半年となり、2023年度上半期実績(345件/半年)と比べ30件(8.7%)増加しました。 引き続き、地域医療機関との関係強化による紹介患者増・効率的なベッド運用による手術室の有効活用に努め、件数増に向けて取り組んでいきます。 ・外来化学療法件数(抗悪性腫瘍剤のみ)は、175件/月となりましたが、2023年度実績161件と比べ14件(8.7%)増加しました。抗がん剤の投与スケジュールを適正に管理し、外来化学療法センターの効率的な運用を行っています。また、外来化学療法全体では208件/月となっており、今後も引き続き、がん診療の充実に努めます。 ・内視鏡手術支援ロボットによる手術件数は、46件/半年となり、目標値を上回りました。現在実施している泌尿器科領域(前立腺がん)、消化器外科領域(直腸がん)に加え、2024年2月には新規の手術として開始した、呼吸器外科領域(肺がん)を15件実施しています。今後も新たな領域での実施に向け検討を進めてまいります。
(2) 脳卒中 【2023年度】 ・脳神経外科・脳神経内科新入院患者数 870人/年	・脳神経外科新入院患者数 479人/年	・脳神経外科新入院患者数 218人/半年	・脳卒中患者の積極的な受入	・脳神経外科の新入院患者数は218人/半年となり、2023年度上半期実績(185人/半年)と比べ33人(17.8%)増加しました。 ・救急来院及び救急からの入院患者数は2023年度上半期と比較して減少している一方で、紹介患者等における入院患者数が増加したため、2023年度上半期と比べて増加しました。 ・6月の診療報酬改定に際して、HCU利用の看護必要度の評価項目が見直されたことに伴い、当院の運用を変更することによって患者を受け入れやすい仕組みを構築するとともに、ICUを一体的に運用することで、より集中的な治療を進めてまいります。
(3) 心疾患 【2024年度】 ・循環器(MDC05)入院患者数 820人/年	・循環器(MDC05)入院患者数 820人/年	・循環器(MDC05)入院患者数 295人/半年	・心疾患患者の積極的な受入	・循環器(MDC05)入院患者数は295人/半年となり、2023年度上半期実績(308件/半年)と比べ13人(4.2%)減少しました。 ・地域医療機関への訪問など地域連携を強化することで、より多くの病院や地域のクリニックから患者を紹介していただけるよう努めてまいります。
(4) 救急医療 【2023年度】 ・救急車による受入患者数 525人/月	・救急車による受入患者数 525人/月 ・救急応需率 65.0% ・HCU運用病床数 12床	・救急車による受入患者数 451人/月 ・救急応需率(救急車対応) 59.8% ・HCU運用病床数 12床	・救急隊との連携強化 ・高度急性期機能の充実	・救急車による受入患者数は451人/月となり、2023年度上半期実績(480人/月)と比べ29人/月(6%)減少しました。応需率は59.8%となり、2023年度上半期実績(61.4%)と比べ1.6ポイント低下しました。 ・4月に医師の働き方改革が施行されたことに伴い、救急医療体制を維持できるよう、関係部署で調整を行いました。 ・町田消防署と定期的に意見交換会を行い連携強化に努めました。 ・HCU(高度治療室)12床を安定的に稼働することによって、一般病棟の負担軽減や救急からの円滑な入院の推進を行っており、4月～9月の病床利用率は約60%となっています。6月の診療報酬改定に際して、HCU利用の看護必要度の評価項目が見直されたことに伴い、当院の運用を変更することによって患者を受け入れやすい仕組みを構築しました。
(5) 災害医療 【2022年度】 ・連携訓練回数 1回/年	・連携訓練回数 1回/年	・連携訓練回数 1回/半年	・災害時を想定した医療機関等との連携推進	・南多摩保健医療圏病院間における通信訓練を7月に実施しました。広域災害救急医療システム(EMIS)及び大規模災害対策情報システム(PEACE)、衛星電話を利用した通信訓練を実施しました。 ・町田市民病院総合防災訓練を2025年1月に実施予定です。
(6) 小児医療 【2023年度】 ・小児科入院患者数 10人/日	・小児科入院患者数 10人/日	・小児科入院患者数 8人/日	・小児入院体制の維持	・小児科入院患者数は8人/日(新生児内科除く)となり、2023年度上半期実績(9人/日)と比べて1人(11.1%)減少しました。 研修会への参加など実施し、スキルアップを進めることで、小児入院体制の維持を図ってまいります。
(7) 周産期医療 【2023年度】 ・母体搬送件数 95件/年 ・NICU・後方支援病床(GCU)新入院患者数 150人/年	・母体搬送件数 95件/年 ・NICU・後方支援病床(GCU)新入院患者数 150人/年	・母体搬送件数 12件/半年 ・NICU・後方支援病床(GCU)新入院患者数 58人/半年	・ハイリスク妊産婦の積極的な受入 ・新生児受入体制の維持	・母体搬送件数は12件/半年となり、2023年度上半期実績(31件/半年)と比べ19件(61.3%)減少しました。南多摩保健医療圏で唯一の地域周産期母子医療センターとして、引き続き積極的な受け入れを行っていきます。 ・NICU・後方支援病床(GCU)新入院患者数は58人/半年となり、2023年度上半期実績(76人/半年)と比べ、18人(23.7%)減少しました。

3. 健全経営の推進 ～収益の向上と費用の適正化を図ります～

中期経営計画の取組項目及び目標値	2024年度事業計画目標	2024年度(上半期)実績値	2024年度(上半期)の主な取組内容	取組内容の説明
(1) 病床の安定的稼働 【2026年度】 ・ 病床利用率 85.0% ・ 新規入院患者数 1,000人/月	・ 病床利用率 83.0% ・ 新規入院患者数 952人/月	・ 病床利用率 70.7% ・ 新規入院患者数 845人/月	・ 稼働率の低い病床の活用方法の検討	・ 病床利用率は70.7%となり、2023年度上半期(69.3%)と比較して、1.4ポイント増加しています。 ・ 新規入院患者数は845人/月となっています。HCUの安定稼働、手術件数の増加などにより2023年度上半期実績(832人/月)と比較すると、13人/月(1.6%)の増加となっています。今後も、効率的な病床運用を図りながら、救急患者受入体制強化に努めるとともに、地域医療機関との連携強化を図ることで紹介患者数の増加などを進めることにより、新規入院患者数の増加に取り組みます。
(2) 診療単価の上昇 【2023年度】 ・ 入院単価 65,000円 【2026年度】 ・ 外来単価 13,000円	・ 入院単価 66,000円 ・ 外来単価 13,000円	・ 入院単価 73,828円 ・ 外来単価 13,746円	・ 新規施設基準の取得 ・ 慢性期患者の逆紹介の推進	・ 入院単価は73,828円となり、2023年度上半期実績(72,747円)と比べ1,081円(1.5%)増加しました。引き続き、新規施設基準取得に向け、体制の構築に取り組みます。 ・ 外来単価は、13,746円となり、2023年度上半期実績(13,357円)と比べ 389円(2.9%)増加しました。主な要因としては注射料の増加が挙げられます。今後も医療機能の役割分担を推進しつつ単価向上に努めます。
(3) 医業費用の適正化 【2023年度】 ・ 給与費比率 61.0% ・ 薬品費比率 12.1% 【2024年度】 ・ 診療材料費比率 8.8%	・ 給与費比率 62.8% ・ 薬品費比率 12.5% ・ 診療材料費比率 9.0% ・ 後発医薬品使用割合 90.0% ・ 電気使用量の削減 5%減(2019年度比)	・ 給与費比率 ー% ・ 薬品費比率 14.1% ・ 診療材料費比率 9.2% ・ 後発医薬品使用割合 94.4% ・ 電気使用量の削減 17.8%減(2019年度比)	・ 適正な人員配置と定数管理 ・ 薬品費の削減 ・ ベンチマークを活用した診療材料費の削減 ・ 光熱費の高騰に対する対応	・ 薬品費比率は14.1%となり、2023年度上半期実績(13.3%)と比べ0.8ポイント上昇しました。抗がん剤等の高額薬品の使用量増加により目標値は上回りましたが、薬品の購入にあたり競争見積及び価格交渉を実施した結果、薬品費の値引率は13.3%で全国平均(約12.0%)を1.3ポイント上回りました。 ・ 診療材料費比率は9.2%となり、2023年度上半期実績(7.8%)と比べ1.4ポイント上昇しました。原材料費及び輸送費、燃料費等の高騰による値上げが相次いでおり、目標値から0.2ポイント高くなりました。物価高騰が続いており価格交渉が難しい中、より安価な製品への切替を引き続き積極的に取り組んでまいります。 ・ 後発医薬品使用割合については、後発医薬品への切り替えを進めた結果、目標値を4.4ポイント上回りました。 ・ 2024年度上半期電気使用量は2,273,688kWhとなり、2019年度上半期実績2,766,486kWhと比べ、492,798kWh(17.8%)減少しました。コジェネシステムの運用見直しおよび熱源機器の運転調整が削減の主な要因です。
(4) 効率的な手術室等の運用 【2025年度】 ・ 手術件数 13,800件/年 (うち手術室内 5,240件/年) (うち麻酔科管理 3,400件/年)	・ 手術件数 13,400件/年 (うち、手術室内 5,100件/年) (うち麻酔科管理 3,300件/年)	・ 手術件数 6,345件/半年 (うち、手術室内 2,446件/半年) (うち麻酔科管理 1,511件/半年)	・ 手術室、内視鏡室等の運営の効率化	・ 手術件数は6,345件/半年となり、2023年度上半期実績(6,297件/半年)と比べ48件(0.8%)増加しました。手術枠の有効活用など効率的運用に努め、手術件数の増加につなげることができました。今後も手術室、内視鏡室の運営効率化に努めます。

4. 人材育成と働き方改革の推進 ～育成体制を構築し、働き方改革に取り組みます～

中期経営計画の取組項目及び目標値	2024年度事業計画目標	2024年度(上半期)実績値	2024年度(上半期)の主な取組内容	取組内容の説明
(1) 職員満足度の向上 【2024年度】 ・職員満足度 45.0%	・職員満足度 45.0%	・職員満足度 — (下半期に調査を実施)	・職員満足度調査の実施	・2022年度の実施結果における当院において満足度を向上するために重要な取り組みについて院内で共有いたしました。 ・2年に1度実施する2024年度の職員満足度調査の実施に向けて準備を進めております。 ・職員満足度が向上し、働き続けたいと思える職場づくりを目的に、院内の多職種による職場環境改善プロジェクトを立ち上げ、全職員から院内における改善提案の募集や、個人と部門の表彰制度の実施などの取り組みを行ってまいります。
(2) 働き方改革への取組 【2024年度】 ・5日以上有給休暇取得率(医師) 100% ・時間外労働月45時間以上の医師数 0人	・5日以上有給休暇取得率(医師) 100% ・特例水準対象医師の時間外労働の削減	・5日以上有給休暇取得率(医師) 58.4% ・特例水準対象医師の平均時間外労働の時間数 4月時点 79名 平均75.01時間 9月時点 20名 平均67.11時間	・ワークライフバランスの実施 ・特例水準対象医師の時間外労働の削減	・有給休暇5日取得を推進するため、5日未取得の医師に取得計画を提出するように通知します。 ・宿日直の許可を取得した診療科が増え(1→10)、特例水準対象医師が減少しました。また、医療職の負担軽減委員会において、タスクシフト・シェアに係る施策検討を進めることにより、徐々に時間労働時間数も減少してきています。